

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 構造機能学 I-1

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	松峰 理真	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	生体の構造を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な構造が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造を習得する。
授業の一般目標 (GIO)	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の構造について学習するとともに、その名称や機能についても学習する。 個体の生命を維持するための循環器系、呼吸器系、消化器系の構造と働きを学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器系の総論について理解することができる。 ・呼吸器系について理解することができる。 ・消化器系の総論について理解することができる。 ・代謝について理解することができる。 ・体温について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	解剖学・生理学 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版株式会社)
参考書	ぜんぶわかる人体解剖図
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験90%と小テスト10%で総合的に評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に載っている用語の理解のために予習をしておくことを勧めます。 ・図を模写することで理解が深まるので積極的にスケッチを行ってください。

【授業計画】 構造機能学 I-1 2022年度 夜間鍼灸科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1	呼吸器系【総論・鼻腔と副鼻腔】	呼吸器系の構成と役割、鼻腔の構造	講義
	2	呼吸器系【咽頭・喉頭・気管と気管支】	咽頭・喉頭・気管・気管支の構造	講義
	3	呼吸器系【肺・縦隔】	肺の構造と縦隔	講義

1期	4	呼吸器系【換気とガス交換】	肺胞換気量、ガス交換、ガス運搬	講義	
	5	呼吸器系【呼吸運動と調節】	呼吸運動とその調節	講義	
	6	消化器系【総論・口腔】	消化器系の構成と役割、口腔の構造	講義	
	7	消化器系【咽頭・食道・胃】	咽頭・食道・胃の構造	講義	
	8	消化器系【小腸・大腸】	小腸・大腸の構造	講義	
	9	消化器系【肝臓・胆嚢】	肝臓と胆嚢の構造	講義	
	10	消化器系【膵臓・腹膜】	膵臓の構造と腹膜	講義	
	11	試験		試験	
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義	
	2期	13	消化器系【消化管の運動】	消化管の運動	講義
		14	消化器系【唾液・胃液・膵液】	唾液・胃液・膵液とその分泌調節	講義
		15	消化器系【膵液・胆汁・腸液・大腸液】	膵液・胆汁・腸液・大腸液とその分泌調節	講義
16		消化器系【消化液まとめ、消化管ホルモン】	消化液、消化管ホルモンの種類と働き	講義	
17		消化器系【吸収・肝臓の働き・摂食調節】	肝臓の働き、消化酵素と消化管ホルモンの名称と働き	講義	
18		代謝【栄養素・代謝】	栄養素の種類と働き、代謝	講義	
19		代謝【糖質】	糖質の働きと代謝	講義	
20		代謝【脂質・蛋白質】	脂質・蛋白質の働きと代謝	講義	
21		代謝【ビタミン・無機質】	ビタミン・無機質の働きと代謝	講義	
22		体温【調節】	体温調節	講義	
23		試験		試験	
24		試験解説	試験内容のフィードバック	講義	
3期	25				
	26				
	27				
	28				
	29				
	30				
	31				
	32				
	33				
	34				
	35				
	36				

【授業進度表】構造機能学 I -1 2022年度 夜間鍼灸科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
1期	1	呼吸器系【総論・鼻腔と副鼻腔】		
	2	呼吸器系【咽頭・喉頭・気管と気管支】		
	3	呼吸器系【肺・縦隔】		
	4	呼吸器系【換気とガス交換】		
	5	呼吸器系【呼吸運動と調節】		
	6	消化器系【総論・口腔】		

1期	7	消化器系【咽頭・食道・胃】	
	8	消化器系【小腸・大腸】	
	9	消化器系【肝臓・胆嚢】	
	10	消化器系【膵臓・腹膜】	
	11	試 験	
	12	試験解説	
2期	13	消化器系【消化管の運動】	
	14	消化器系【唾液・胃液・膵液】	
	15	消化器系【膵液・胆汁・腸液・大腸液】	
	16	消化器系【消化液まとめ、消化管ホルモン】	
	17	消化器系【吸収・肝臓の働き・摂食調節】	
	18	代謝【栄養素・代謝】	
	19	代謝【糖質】	
	20	代謝【脂質・蛋白質】	
	21	代謝【ビタミン・無機質】	
	22	体温【調節】	
	23	試 験	
	24	試験解説	
3期	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
	31		
	32		
	33		
	34		
	35		
	36		

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 構造機能学Ⅱ-1

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	坂本 収司	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	生体の構造を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な構造が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造を習得する。身体を構成する運動器の基礎的な構造と機能を習得すると共に、運動に関わる神経との関連を習得する。
授業の一般目標 (G10)	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の構造について学習するとともに、その名称や機能についても学習する。身体を構成する運動器の、筋・脈管・神経および基礎的な運動の関連を学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の概論について理解することができる。 ・上皮組織、結合組織について理解することができる。 ・骨格系について理解することができる。 ・筋系について理解することができる。 ・体幹の運動と局所解剖 について理解することができる。 ・上肢の運動と局所解剖 について理解することができる。 ・下肢の運動と局所解剖 について理解することができる。 ・神経系について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	解剖学・生理学 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社）
参考書	ぜんぶわかる人体解剖図
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験90%と小テスト10%で総合的に評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】構造機能学Ⅱ-1 2022年度 夜間鍼灸科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1	組織【概論・上皮組織】	4つの組織、上皮組織の種類と部位	講義

1期	2	組織【結合組織】	結合組織の種類、線維性結合組織・軟骨・骨の基本構造	講義
	3	骨格系【総論：骨、関節、筋】	骨の概要・関節の種類・筋の概要と運動	講義
	4	骨格系【体幹：脊柱の構成・椎骨】	脊柱を構成する骨、椎骨の基本形態・連結、頸椎の特徴	講義
	5	骨格系【体幹：椎骨】	胸椎・腰椎・仙骨・尾骨の特徴	講義
	6	骨格系【体幹：胸郭】	胸骨・肋骨の特徴	講義
	7	骨格系【上肢：上肢帯、上腕】	上肢帯・上腕骨の特徴	講義
	8	骨格系【上肢：前腕、手】	橈骨・尺骨・手の骨の特徴	講義
	9	骨格系【上肢の関節】	上肢の関節の種類と特徴	講義
	10	骨格系【下肢：下肢帯、大腿】	下肢帯・大腿骨の特徴	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
	2期	13	骨格系【下肢：下腿、足】	膝蓋骨・腓骨・脛骨と足の骨の特徴
14		骨格系【下肢の関節】	下肢の関節の種類と特徴	講義
15		筋系【体幹：胸筋】	胸筋、起始・停止、支配神経、作用	講義
16		筋系【体幹：腹筋・会陰筋】	腹筋、起始・停止、支配神経、作用	講義
17		筋系【体幹：背筋】	背筋、起始・停止、支配神経、作用	講義
18		体幹の運動と局所解剖	体幹の運動と局所解剖	講義
19		筋系【上肢：上肢帯の筋】	上肢帯の筋、起始・停止、支配神経、作用	講義
20		筋系【上肢：上腕の筋】	上腕の筋、起始・停止、支配神経、作用	講義
21		筋系【上肢：前腕筋】	前腕の筋、起始・停止、支配神経、作用	講義
22		筋系【上肢：手の筋】	手の筋、それぞれの特徴、支配神経、作用	講義
23		試験		試験
24		試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25	上肢の運動と局所解剖	上肢の局所的な構造と特徴	講義
	26	筋系【下肢：下肢帯の筋】	下肢帯の筋、起始・停止、支配神経、作用	講義
	27	筋系【下肢：大腿の筋】	大腿前面・内面の筋、起始・停止、支配神経、作用	講義
	28	筋系【下肢：大腿・下腿の筋】	大腿後面・下腿前面の筋、起始・停止、支配神経、作用	講義
	29	筋系【下肢：下腿の筋】	下腿外側面・後面の筋、起始・停止、支配神経、作用	講義
	30	筋系【下肢：足の筋】	足の筋、特徴、支配神経、作用	講義
	31	下肢の運動と局所解剖	下肢の局所的な構造とその特徴	講義
	32	神経系【上肢：腕神経叢】	腕神経叢、上肢の主な神経	講義
	33	神経系【下肢：腰神経叢】	腰神経叢、主な神経	講義
	34	神経系【下肢：仙骨神経叢】	仙骨神経叢、主な神経	講義
	35	試験		試験
	36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【授業進捗表】 構造機能学Ⅱ-1 2022年度 夜間鍼灸科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
	1	組織【概論・上皮組織】		
	2	組織【結合組織】		

1期	3	骨格系【総論：骨、関節、筋】	
	4	骨格系【体幹：脊柱の構成・椎骨】	
	5	骨格系【体幹：椎骨】	
	6	骨格系【体幹：胸郭】	
	7	骨格系【上肢：上肢帯、上腕】	
	8	骨格系【上肢：前腕、手】	
	9	骨格系【上肢の関節】	
	10	骨格系【下肢：下肢帯、大腿】	
	11	試験	
	12	試験解説	
2期	13	骨格系【下肢：下腿、足】	
	14	骨格系【下肢の関節】	
	15	筋系【体幹：胸筋】	
	16	筋系【体幹：腹筋・会陰筋】	
	17	筋系【体幹：背筋】	
	18	体幹の運動と局所解剖	
	19	筋系【上肢：上肢帯の筋】	
	20	筋系【上肢：上腕の筋】	
	21	筋系【上肢：前腕筋】	
	22	筋系【上肢：手の筋】	
	23	試験	
	24	試験解説	
3期	25	上肢の運動と局所解剖	
	26	筋系【下肢：下肢帯の筋】	
	27	筋系【下肢：大腿の筋】	
	28	筋系【下肢：大腿・下腿の筋】	
	29	筋系【下肢：下腿の筋】	
	30	筋系【下肢：足の筋】	
	31	下肢の運動と局所解剖	
	32	神経系【上肢：腕神経叢】	
	33	神経系【下肢：腰神経叢】	
	34	神経系【下肢：仙骨神経叢】	
	35	試験	
	36	試験解説	

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	二神 幸一	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	生体の機能を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な機能が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な機能について習得する。
授業の一般目標 (GIO)	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の機能について学習するとともに、その評価方法についても学習する。 生命の最小単位である細胞、生体の機能維持に関与する神経系と内分泌系、生命の誕生と種の存続に関わる生殖器系の構造と機能について学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞膜と物質の移動について理解することができる。 ・細胞質と細胞小器官、細胞分裂と遺伝子について理解することができる。 ・神経系について理解することができる。 ・内分泌系について理解することができる。 ・生殖器系について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	解剖学・生理学 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社）
参考書	ぜんぶわかる人体解剖図
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験90%と小テスト10%で総合的に評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	解剖学、生理学の教科書を同時に使用するので、教科書、参考書を基にどのページに書いてあるか予習、復習を行うこと
履修にあたっての留意点	自分の体のどの部分の話か、イメージできるように図を書くことができるようにするとよい

【授業計画】 構造機能学Ⅲ－1 2022年度 夜間鍼灸科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
----	----	------	----	------

1期	1	基礎【細胞膜・物質の移動】	細胞膜の構造と物質の移動	講義
	2	基礎【細胞質と細胞小器官】	細胞小器官の特徴と働き	講義
	3	基礎【細胞分裂と遺伝子】	細胞分裂と遺伝子	講義
	4	神経系【構成】	神経系の概要 (中枢神経と末梢神経、体性神経と自律神経、求心性神経と遠心性神経)	講義
	5	神経系【ニューロン、支持細胞、静止電位】	ニューロンの部位の名称、支持細胞の種類と働き、静止電位	講義
	6	神経系【活動電位、興奮の伝導】	活動電位の発生、伝導の特徴	講義
	7	神経系【シナプス伝達】	伝達の仕組み、主な神経伝達物質、受容体	講義
	8	神経系【脊髄】	脊髄の構造、内部構造	講義
	9	神経系【脳幹】	脳幹の構造と働き	講義
	10	神経系【小脳・間脳】	小脳、間脳の構造と働き	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	神経系【大脳】	大脳の構造と機能局在	講義
	14	神経系【脳室・髄膜・脳脊髄液・脳血管】	脳室の構造と脳脊髄液、脳血管	講義
	15	神経系【伝導路】	伝導路の種類と中継核	講義
	16	神経系【脳神経の構成】	脳神経の種類と走行	講義
	17	神経系【脳神経の機能】	脳神経の働き	講義
	18	神経系【脊髄神経の構成と機能】	脊髄神経の構成とデルマトーム	講義
	19	神経系【自律神経：概要】	自律神経の概要と調節の特徴、内臓求心性神経	講義
	20	神経系【自律神経：副交感神経他】	交感神経と副交感神経の構造と働き	講義
	21	神経系【自律神経：伝達物質と受容体】	神経伝達物質と受容体	講義
	22	神経系【自律神経：中枢、反射】	自律神経の中枢と関与する反射	講義
	23	試験		試験
	24	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25	内分泌系【概要】	ホルモンの定義と分類	講義
	26	内分泌系【視床下部・下垂体】	視床下部、下垂体、松果体からのホルモンとその働き	講義
	27	内分泌系【甲状腺・副甲状腺】	甲状腺、副甲状腺の構造、ホルモンとその働き	講義
	28	内分泌系【副腎髄質・皮質】	副腎の構造、ホルモンの特徴と働き	講義
	29	内分泌系【膵臓・他】	副腎皮質、その他の部分からのホルモンの特徴と働き	講義
	30	内分泌系【性ホルモン】	性ホルモンの特徴と働き	講義
	31	生殖器系【男性生殖器】	男性生殖器の名称、性反射	講義
	32	生殖器系【女性生殖器】	女性生殖器の名称	講義
	33	生殖器系【性周期】	女性の性周期	講義
	34	生殖器系【受精と発生、妊娠と出産】	受精から出産まで	講義
	35	試験		試験
	36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【授業進度表】 構造機能学Ⅲ－1 2022年度 夜間鍼灸科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
1期	1	基礎【細胞膜・物質の移動】		
	2	基礎【細胞質と細胞小器官】		
	3	基礎【細胞分裂と遺伝子】		
	4	神経系【構成】		
	5	神経系【ニューロン、支持細胞、静止電位】		
	6	神経系【活動電位、興奮の伝導】		
	7	神経系【シナプス伝達】		
	8	神経系【脊髄】		
	9	神経系【脳幹】		
	10	神経系【小脳・間脳】		
	11	試験		
	12	試験解説		
2期	13	神経系【大脳】		
	14	神経系【脳室・髄膜・脳脊髄液・脳血管】		
	15	神経系【伝導路】		
	16	神経系【脳神経の構成】		
	17	神経系【脳神経の機能】		
	18	神経系【脊髄神経の構成と機能】		
	19	神経系【自律神経：概要】		
	20	神経系【自律神経：副交感神経他】		
	21	神経系【自律神経：伝達物質と受容体】		
	22	神経系【自律神経：中枢、反射】		
	23	試験		
	24	試験解説		
3期	25	内分泌系【概要】		
	26	内分泌系【視床下部・下垂体】		
	27	内分泌系【甲状腺・副甲状腺】		
	28	内分泌系【副腎髄質・皮質】		
	29	内分泌系【膵臓・他】		
	30	内分泌系【性ホルモン】		
	31	生殖器系【男性生殖器】		
	32	生殖器系【女性生殖器】		
	33	生殖器系【性周期】		
	34	生殖器系【受精と発生、妊娠と出産】		
	35	試験		
	36	試験解説		

【分野】 専門基礎分野 疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進

【科目】 診療の基本－1

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	松峰 理真	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	生体の機能を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な機能が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な機能を習得する。
授業の一般目標 (G10)	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の機能について学習するとともに、その評価方法についても学習する。代謝によって発生する体温と体温調節の仕組みを理解し、代謝産物の排泄に関わる泌尿器系の構造と働きを理解し、筋の働きについて理解する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・体温について理解することができる。 ・泌尿器系の総論について理解することができる。 ・泌尿器系について理解することができる。 ・筋について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	生理学・臨床医学総論 東洋療法学校協会編
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験90%と小テスト10%で総合的に評価を行う。
成績評価方法	1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	教科書を基に復習を行うこと
履修にあたっての留意点	医療面接、身体計測、バイタルサインは実行しながら復習することが望ましい。

【授業計画】 診療の基本－1 2022年度 夜間鍼灸科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1			

1期	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	2期	13		
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
3期	25	体温【産熱と放散】	体熱の産生と放散	講義
	26	体温【発汗・調節障害】	発汗調節と体温調節障害	講義
	27	泌尿器系【総論、腎臓の構造】	泌尿器系の構成と役割、腎臓の構造	講義
	28	泌尿器系【尿路の構造】	尿路の構造	講義
	29	泌尿器系【腎循環・尿生成】	腎循環と糸球体での濾過・再吸収・分泌	講義
	30	泌尿器系【尿生成・体液の調節】	クリアランス、尿成分、pH調節、浸透圧、体液量	講義
	31	泌尿器系【畜尿と排尿】	畜尿と排尿	講義
	32	筋【骨格筋の構造】	骨格筋の微細構造	講義
	33	筋【収縮の仕組み】	筋の収縮の仕組み	講義
	34	筋【エネルギー供給の仕組み・心筋と平滑筋】	筋のエネルギー供給の仕組み、骨格筋・心筋・平滑筋の特徴	講義
	35	試験		試験
	36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【授業進度表】 診療の基本－1 2022年度 夜間鍼灸科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認	科長確認
	1				
	2				
	3				

1期	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	2期	13	
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
3期	25	体温【産熱と放散】	
	26	体温【発汗・調節障害】	
	27	泌尿器系【総論、腎臓の構造】	
	28	泌尿器系【尿路の構造】	
	29	泌尿器系【腎循環・尿生成】	
	30	泌尿器系【尿生成・体液の調節】	
	31	泌尿器系【畜尿と排尿】	
	32	筋【骨格筋の構造】	
	33	筋【収縮の仕組み】	
	34	筋【エネルギー供給の仕組み・心筋と平滑筋】	
	35	試験	
	36	試験解説	

【科目】 保健医療福祉学

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	田辺 耕太	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	公衆衛生学とは健康を維持増進させる学問である。理想的な健康像とはどういうことなのか、健康管理は個人や行政ではどのように考え、実践されているか、地球温暖化などの地球的規模の環境問題から空気・水・食品など私達を取り巻く生活環境に関する知識、職業がどのように健康に影響を与えるのか、生活習慣病の実態と予防はどうなっているのかといったことなどを学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	責任感を持ってあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師としての業務を行うために、わが国の衛生状況の概要を理解する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係法規、職業倫理について理解することができる。 ・ 衛生・公衆衛生学の意義について理解することができる。 ・ 健康の概要、健康管理について理解することができる。 ・ 衛生行政、医療制度と医療保険について理解することができる。 ・ 食品と栄養、食品と疾病、添加物、食中毒について理解することができる。 ・ 運動と健康について理解することができる。 ・ 環境と健康について理解することができる。 ・ 日常生活環境について理解することができる。 ・ 公害、地球規模の環境問題について理解することができる。 ・ 労働災害とその対策について理解することができる。 ・ 精神保健について理解することができる。 ・ 母子保健について理解することができる。 ・ 生活習慣病について理解することができる。 ・ 感染症について理解することができる。 ・ 消毒について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	衛生学・公衆衛生学、臨床医学各論（東洋療法学校協会編）
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	年間計画及び導入、関係法規、職業倫理	あはき師としての適切な範囲の業務	講義
	2	衛生・公衆衛生学の意義	包括保険、地域保険	講義
	3	健康の概要	健康とは	講義
	4	健康管理	健康管理（集団検診）の条件	講義
	5	衛生行政、医療制度と医療保険	保健所と市町村の役割、医療保険の特徴	講義
	6	食品と栄養	食生指針	講義
	7	食品と疾病	栄養素の過剰疾患	講義
	8	食品加工と添加物、食中毒	食品添加物、経口感染症と経口的寄生虫症	講義
	9	運動と健康	健康作りの対策（飲酒・喫煙）	講義
	10	運動と健康	運動の意義、健康の維持増進	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	環境と健康	環境に影響する化学・生物・物理学的要因	講義
	14	日常生活環境	温熱、騒音、振動、電離・非電離放射線	講義
	15	日常生活環境	化学発癌物質（ダイオキシン、PCB）病原微生物	講義
	16	公害	公害の主なエピソード	講義
	17	地球規模の環境問題	有害物質の体内蓄積と生物濃縮、環境ホルモン	講義
	18	環境問題に対する対応	オゾン層破壊、地球温暖化酸性雨、砂漠化	講義
	19	産業保健、産業保険の意義	産業衛生の意義、産業衛生の三管理	講義
	20	労働災害とその対策	職業病	講義
	21	精神保健の意義	適応障害、ストレス、アルコール・薬物依存症	講義
	22	精神保健の現状と分類	精神障害者に対する医療制度	講義
	23	試験		試験
	24	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25	母子保健の意義、母胎乳幼児の健康	母子保健水準の指標	講義
	26	母胎乳幼児の健康つづき、成人・高齢者保健の意義	乳幼児保健対策、少子化対策（リプロダクティブヘルス含む）、加齢と老化対策	講義
	27	生活習慣病対策	生活習慣病の特徴	講義
	28	感染症の意義と種類	感染症法、感染症の種類、指定感染症、新興・再興感染症	講義
	29	感染症発生要因	免疫、垂直感染、輸入感染症	講義
	30	感染症予防の原則	感染症発生要因（感染源・感染経路・宿主の感受性）	講義
	31	感染症予防の免疫	免疫、予防接種	講義
	32	消毒法一般	消毒と滅菌の違い	講義
	33	消毒の種類	物理的・化学的消毒法	講義
	34	消毒の実際	医療廃棄物の処理	講義
	35	試験		試験
	36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【授業進捗表】 保健医療福祉学 2022年度 夜間鍼灸科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
----	----	------	-------	------

1期	1	年間計画及び導入、関係法規、職業倫理		
	2	衛生・公衆衛生学の意義		
	3	健康の概要		
	4	健康管理		
	5	衛生行政、医療制度と医療保険		
	6	食品と栄養		
	7	食品と疾病		
	8	食品加工と添加物、食中毒		
	9	運動と健康		
	10	運動と健康		
	11	試験		
	12	試験解説		
2期	13	環境と健康		
	14	日常生活環境		
	15	日常生活環境		
	16	公害		
	17	地球規模の環境問題		
	18	環境問題に対する対応		
	19	産業保健、産業保険の意義		
	20	労働災害とその対策		
	21	精神保健の意義		
	22	精神保健の現状と分類		
	23	試験		
	24	試験解説		
3期	25	母子保健の意義、母胎乳幼児の健康		
	26	母胎乳幼児の健康つづき、成人・高齢者保健の意義		
	27	生活習慣病対策		
	28	感染症の意義と種類		
	29	感染症発生要因		
	30	感染症予防の原則		
	31	感染症予防の免疫		
	32	消毒法一般		
	33	消毒の種類		
	34	消毒の実際		
	35	試験		
	36	試験解説		

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	船水 隆広	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	東洋医学の沿革について学ぶ。また東洋医学の基本的な考え方である陰陽学説や五行学説をもとに、精・気・血・津液の生理・病理・病証、六臓六腑の生理・病理・病証や経絡についても学ぶ。病気を引き起こす原因についても東洋医学的に学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	東洋医学における哲学的理解を学習する。 基礎概念である陰陽五行、気血津液などを学習する。 蔵象と病因病機の機序を学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東洋医学の沿革について理解することができる。 ・ 治療論と治療法の概略について理解することができる。 ・ 天人合一思想～五行学説について理解することができる。 ・ 陰陽学説、五行学説について理解することができる。 ・ 五行分類について理解することができる。 ・ 精(先天の精・後天の精)と神について理解することができる。 ・ 真気的作用および特定の気的作用について理解することができる。 ・ 血・津液的作用について理解することができる。 ・ 蔵象について理解することができる。 ・ 病因について理解することができる。 ・ 病証、八綱病証について理解することができる。 ・ 気血津液弁証について理解することができる。 ・ 代表的な疾病について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	新版 東洋医学概論 (教科書検討小委員会)
参考書	漢字辞典
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験90%と小テスト10%で総合的に評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	複雑な漢字や現代医学と異なる理論が展開されるので、柔軟な考え方で受け入れることが必要である。スマホ・タブレットは指示に従って使用すること。

【授業計画】 東洋医学概論－1 2022年度 夜間鍼灸科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
----	----	------	----	------

1期	1	東洋医学の沿革	古代中国医学と現代医学との相違	講義	
	2	治療論と治療法の概略	治未病の概念の理解、古代九鍼の概略	講義	
	3	日本と世界の東洋医学	日本の伝統医学と中医学	講義	
	4	人体の見方 天人合一思想～五行学説	東洋医学の人体の捉え方と思想	講義	
	5	陰陽学説 1	陰陽論の基礎	講義	
	6	陰陽学説 2	人体における陰陽論	講義	
	7	五行学説 分類と相生と相克	相生・相克と相乗・相侮	講義	
	8	五行分類 1	色体表の分類、五行配当の関係	講義	
	9	五行分類 2		講義	
	10	五行分類 3		講義	
		11	試験		試験
		12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	精(先天の精・後天の精)と神	精と神	講義	
	14	真気的作用および特定の気的作用	気的作用	講義	
	15	血・津液的作用	血的作用、津液的作用	講義	
	16	蔵象の総論	蔵象の考え方	講義	
	17	蔵象の生理(肝～心)	各臓腑 各臓腑の象徴的役割、生理的機能、 他の器官との関連	講義	
	18	蔵象の生理(脾)		講義	
	19	蔵象の生理(肺)		講義	
	20	蔵象の生理(腎)		講義	
	21	蔵象の生理(六腑)		講義	
	22	蔵象の生理(奇恒の腑)・蔵象のまとめ	臓象学全体の理解	講義	
		23	試験		試験
		24	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25	病因 1 (病因の分類/外感病・外因)	病因の分類、外感病、各病因の侵入 経路、証候、疾病季節・五臓との関係 内傷病・病理産物 病証と五臓の関係	講義	
	26	病因 2 (内傷病・内因と不内外因)		講義	
	27	病因 3 (病理産物・その他外傷等)		講義	
	28	病証とは何か/八綱病証 総論	病証の概論	講義	
	29	八綱病証	陰陽・病位(表裏)・病情(寒熱)・ 病勢(虚実)の概念	講義	
	30	気血津液弁証 1 (気の病証)	気・血・津液それぞれの循環異常、 臓腑・経絡との関連	講義	
	31	気血津液弁証 2 (血の病証)		講義	
	32	気血津液弁証 3 (津液の病証)		講義	
	33	代表的な疾病(熱病・風病・痛・厥)	熱病・風病・痛・厥	講義	
	34	代表的な疾病 (痺・痿・欬嗽(咳嗽)・瘧・積聚・疝・その他)	痺・痿・欬嗽(咳嗽)・瘧・積聚・疝	講義	
		35	試験		試験
		36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【授業進度表】 東洋医学概論－1 2022年度 夜間鍼灸科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
	1	東洋医学の沿革		

1期	2	治療論と治療法の概略	
	3	日本と世界の東洋医学	
	4	人体の見方 天人合一思想～五行学説	
	5	陰陽学説 1	
	6	陰陽学説 2	
	7	五行学説 分類と相生と相克	
	8	五行分類 1	
	9	五行分類 2	
	10	五行分類 3	
	11	試験	
	12	試験解説	
	2期	13	精(先天の精・後天の精)と神
14		真気的作用および特定の気的作用	
15		血・津液的作用	
16		蔵象の総論	
17		蔵象の生理(肝～心)	
18		蔵象の生理(脾)	
19		蔵象の生理(肺)	
20		蔵象の生理(腎)	
21		蔵象の生理(六腑)	
22		蔵象の生理(奇恒の腑)・蔵象のまとめ	
23		試験	
24		試験解説	
3期	25	病因 1 (病因の分類/外感病・外因)	
	26	病因 2 (内傷病・内因と不内外因)	
	27	病因 3 (病理産物・その他外傷等)	
	28	病証とは何か/八綱病証 総論	
	29	八綱病証	
	30	気血津液弁証 1 (気の病証)	
	31	気血津液弁証 2 (血の病証)	
	32	気血津液弁証 3 (津液の病証)	
	33	代表的な疾病(熱病・風病・痛・厥)	
	34	代表的な疾病(痺・痿・欬嗽・瘧・積聚・疝・その他)	
	35	試験	
	36	試験解説	

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	鈴木 得二郎	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	あはき師において臨床では経穴を取穴出来ることは必須である。体表解剖・取穴実習では実際の身体で正確に経穴を取穴していくことを学び、ここでは経脈の名称や流注、経穴の名前を順番通りに覚え、さらに経穴の部位を正確に覚えることによって、取穴するために必要な経絡経穴の知識を学んでいく。
授業の一般目標 (G10)	あはき臨床において正確に取穴を行うために、全身を流れている経絡、全身に存在する経穴の概要を学習する。
到達目標 (SB0s)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経絡の誕生、臓腑の概要、経穴の概要について理解することができる。 ・ 経穴の取り方に必要な用語について理解することができる。 ・ 督脈、任脈の順番と流注について理解することができる。 ・ 手の太陰肺経～足の厥陰肝経の順番と流注について理解することができる。 ・ 奇経八脈、奇穴の主治と取り方について理解することができる。 ・ 経絡経穴の現代的な研究について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	新版経絡経穴概論（教科書検討小委員会）
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験90%と小テスト10%で総合的に評価を行う。
成績評価方法	1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 経絡経穴概論－1 2022年度 夜間鍼灸科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1	経絡の誕生～臓腑の概要	経絡の意義と臓腑との関係	講義
	2	経穴の概要（流注と骨度法）	経脈の流注、骨度法	講義
	3	経穴の概要（要穴の概略）	要穴の種類と意味	講義
	4	経穴の取り方に必要な用語、督脈の順番と流注	体表指標示、督脈の流注と順番	講義

1期	5	督脈 経穴と基準となる経穴と部位	督脈	講義
	6	任脈の順番と流注、経穴と基準となる経穴と部位	任脈	講義
	7	任脈～手の太陰肺経の順番、流注、部位	肺経	講義
	8	手の陽明大腸経の順番、流注、部位	大腸経	講義
	9	手の陽明大腸経～足の陽明胃経の順番、流注、部位	胃経	講義
	10	足の陽明胃経の順番、流注、部位	胃経	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	足の太陰脾経の順番、流注、部位	脾経	講義
	14	足の太陰脾経の部位、取り方	脾経	講義
	15	手の少陰心経の順番、流注、部位	心経	講義
	16	手の太陽小腸経の順番、流注、部位	小腸経	講義
	17	足の太陽膀胱経の順番、流注、部位	膀胱経	講義
	18	足の太陽膀胱経の流注、部位	膀胱経	講義
	19	足の少陰腎経の順番、流注、部位	腎経	講義
	20	足の少陰腎経の流注、部位	腎経	講義
	21	手の厥陰心包経、手の少陽三焦経の順番、流注、部位	心包経・三焦経	講義
	22	手の少陽三焦経の部位	三焦経	講義
	23	試験		試験
	24	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25	足の少陽胆経の順番、流注、部位	胆経	講義
	26	足の少陽胆経の部位、	胆経	講義
	27	足の厥陰肝経の順番、流注、部位	肝経	講義
	28	奇経八脈	奇経八脈	講義
	29	奇経八脈、奇穴の主治と取り方	奇経八脈、奇穴	講義
	30	奇穴の主治と取り方	奇穴	講義
	31	奇穴の主治と取り方	奇穴	講義
	32	経穴の組合せ	経穴の組合せと主治	講義
	33	経絡経穴の現代的研究	現代的研究	講義
	34	まとめ	十四経脈上の経穴	講義
	35	試験		試験
	36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【授業進捗表】 経絡経穴概論－1 2022年度 夜間鍼灸科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認	科長確認
1期	1	経絡の誕生～臓腑の概要			
	2	経穴の概要（流注と骨度法）			
	3	経穴の概要（要穴の概略）			
	4	経穴の取り方に必要な用語、督脈の順番と流注			
	5	督脈 経穴と基準となる経穴と部位			
	6	任脈の順番と流注、経穴と基準となる経穴と部位			
	7	任脈～手の太陰肺経の順番、流注、部位			
	8	手の陽明大腸経の順番、流注、部位			
	9	手の陽明大腸経～足の陽明胃経の順番、流注、部位			
	10	足の陽明胃経の順番、流注、部位			

	11	試験	
	12	試験解説	
2期	13	足の太陰脾経の順番、流注、部位	
	14	足の太陰脾経の部位、取り方	
	15	手の少陰心経の順番、流注、部位	
	16	手の太陽小腸経の順番、流注、部位	
	17	足の太陽膀胱経の順番、流注、部位	
	18	足の太陽膀胱経の流注、部位	
	19	足の少陰腎経の順番、流注、部位	
	20	足の少陰腎経の流注、部位	
	21	手の厥陰心包経、手の少陽三焦経の順番、流注、部位	
	22	手の少陽三焦経の部位	
	23	試験	
	24	試験解説	
3期	25	足の少陽胆経の順番、流注、部位	
	26	足の少陽胆経の部位、	
	27	足の厥陰肝経の順番、流注、部位	
	28	奇経八脈	
	29	奇経八脈、奇穴の主治と取り方	
	30	奇穴の主治と取り方	
	31	奇穴の主治と取り方	
	32	経穴の組合せ	
	33	経絡経穴の現代的研究	
	34	まとめ	
	35	試験	
	36	試験解説	

【科目】 はりきゅう理論

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	三村 直巳	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ はり、きゅう施術で用いる手技や道具に関する事柄や衛生概念、リスク管理を理解し、系統的な「はり」「きゅう」の各施術をおこなうための基礎的理論を養う。 ・ 中国医学史、西洋医学史、日本医学史を学び、あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの歴史を日本と諸外国の歴史とを比較しながら学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衛生的で安全な鍼灸臨床を行うために、鍼・灸の基本知識、施術の意義、基本手技を理解する。 ・ 代替医療や統合医療における鍼灸の位置づけや役割を理解し、はき師として医療の歴史についての知識を習得する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各施術法に必要な基礎用語と用具名称を理解することができる。 ・ 技術の名称と意義を理解することができる。 ・ 施術上の一般的注意から、医療過誤、副作用、感染症対策、禁忌などのリスク管理の必要性を理解することができる。 ・ 西洋医学、東洋医学、鍼灸の歴史について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	はりきゅう理論 東洋療法学校協会編
参考書	配布プリント等
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	実技で配布されたプリントと照らし合わせて復習すること。

【授業計画】 はりきゅう理論 2022年度 夜間鍼灸科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1			
	2			
	3			

1期	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25	鍼灸の歴史	西洋医学、東洋医学、鍼灸の歴史	講義
	26	鍼灸の歴史	西洋医学、東洋医学、鍼灸の歴史	講義
	27	概論・鍼の基礎知識	鍼灸の特徴、鍼の用具、古代九鍼	講義
	28	刺鍼の方式と術式	刺鍼の方式、術式、手技	講義
	29	特殊鍼法	特殊鍼法	講義
	30	灸の基礎知識	艾、線香の特徴	講義
	31	灸術の種類	灸術の種類	講義
	32	リスク管理	鍼灸療法の適応と禁忌	講義
	33	リスク管理	感染対策	講義
	34	リスク管理	鍼灸療法の有害事象の予防法と対処法	講義
	35	試験		試験
	36	試験解説		講義

【授業進度表】 はりきゅう理論 2022年度 夜間鍼灸科					
学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認	科長確認
1期	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				

	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
2期	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
3期	25	鍼灸の歴史	
	26	鍼灸の歴史	
	27	概論・鍼の基礎知識	
	28	刺鍼の方式と術式	
	29	特殊鍼法	
	30	灸の基礎知識	
	31	灸術の種類	
	32	リスク管理	
	33	リスク管理	
	34	リスク管理	
	35	試験	
	36	試験解説	

【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう基礎実技 I

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	岩元 健朗	
単位数	2 単位		実務経験	5年以上
開講学期	前期・後期	授業形態・回数	実技	36回

【授業情報】

授業概要	<p>はり師・きゅう師が医療人である事を自覚することで、衛生観念などをはじめ身なりや言葉遣いなどを意識させるとともに、鍼施術時の注意事項や過誤・副作用などと、その対処法などを学習する。実技として、前期までは鍼実技を中心に鍼道具の取り扱いや消毒法なども含めた鍼の基本実技・動作を理解、実践できるような学習を行う。後期からは身体部位の代表的な経穴に対して、鍼施術を中心として、基本的な鍼灸施術動作を行えることを目的に行う。また、正しく取穴ができるように体表解剖を重視しながら、取穴実技を行う。</p> <p>治療院での施術経験を活かし、はりきゅうの施術手法について、より実践的な授業を行う。</p>
授業の一般目標 (GIO)	正確かつ衛生的で安全に刺鍼を行えるようになるために、基本的な操作や鍼の基礎知識、必要な衛生学的知識、施術者としての心構えを修得する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> 医療人として相応しい衛生観念、言動ができるとともに過誤や副作用を理解することができる。 鍼の基本実技を理解し、正確に実践することができる。 後期には身体各部位に於いて、鍼施術を中心として、安全に鍼灸施術を行うことを目標とし、正しく取穴ができるように主要な経穴の取穴実技を身につける。

【担当教員から】

教科書	はりきゅう実技〈基礎編〉 第2版
参考書	
成績評価基準	<p>授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。</p>
成績評価方法	<p>1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満</p>
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	教科書に載っている用語の理解のために予習をしておくことを勧めます。

【授業計画】 はりきゅう基礎実技 I 2022年度 夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1	1. 鍼灸実技用具の名称、説明 1) 施術上の注意、消毒法、道具の管理など	【知識として】	実技

前期	2	2. 鍼の基本実技の説明、練習 (1) 刺鍼法の概説、(2) 偶発症と対策	<ul style="list-style-type: none"> ・鍼道具の名称・管理 ・施鍼上の注意事項 ・偶発症と対策 ・消毒法の違い 	実技	
	3	(3) 基本刺鍼練習		実技	
	4	①片手挿管の反復練習		【実技として】(練習台において)	実技
	5	②刺鍼練習台にて刺鍼基本動作の反復練習 ・送り込み法、旋撚刺法、撚鍼法		・片手挿管	実技
	6	・直刺、斜刺、横刺 ・各手技(17法)の説明と練習		・正しい基本刺鍼動作 ・指定の角度・深度 ・各種の刺鍼法	実技
	7	(4) 人体刺鍼(自己下腿刺鍼) ・自己下腿刺鍼の練習		<ul style="list-style-type: none"> ・適切な衛生操作・手指・患部消毒 ・自己下肢 	実技
	8	①下肢陽経の刺鍼(胃経を中心に)	実技		
	9	②下肢陰経の刺鍼(脾経を中心に) ③下肢への刺鍼(その他の経絡、大腿部)	実技		
	10	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ①下肢 a. 背臥位 陽経	<ul style="list-style-type: none"> ・対人下肢 	実技	
	11	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ①下肢 b. 背臥位 陰経		実技	
	12	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ①下肢 c. 腹臥位 陽経・陰経		実技	
	13	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ①下肢 d. 背臥位: 足部		実技	
	14	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ①下肢 全体復習		実技	
	15	前期復習(夏季休暇後の為)	片手挿管、基本刺鍼動作、対人施鍼動作	実技	
	16	鍼実技試験1(施鍼基本動作確認)		試験	
	17	鍼実技試験2(人体施鍼)	衛生操作、人体刺鍼	試験	
	18	試験講評	試験内容のフィードバック	実技	
	後期	19	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ②上肢 a. 陽経 1	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な経穴 ・対人への適切な施鍼 	実技
20		(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ②上肢 a. 陽経 2	実技		
21		(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ②上肢 b. 陰経 1	実技		
22		(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ②上肢 b. 陰経 2	実技		
23		(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ③頸肩背部 1	実技		
24		(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ③頸肩背部 2	実技		
25		(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ③頸肩背部 3	実技		
26		(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ④腰殿部	実技		
27		(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ③頸肩背部~④腰殿部の復習	実技		
28		(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ⑤肩関節周囲部 1	実技		
29		(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ⑤肩関節周囲部 2	実技		
30		鍼実技試験(対人施鍼)	試験		
31		試験講評	試験内容のフィードバック	実技	
32		(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ⑥腹部 1	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な経穴 ・対人への適切な施鍼 	実技	
33		(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ⑥腹部 2		実技	
34		(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ⑦胸部		試験	
35		(6) 人体刺鍼(対人刺鍼) ⑧頭部		実技	
36		(7) 人体刺鍼(対人刺鍼) ⑨顔面部		実技	

【授業進度表】 はりきゅう基礎実技 I 2022年度 夜間特修コース

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認	科長確認
	1	1. 鍼灸実技用具の名称、説明 1) 施術上の注意、消毒法、道具の管理など			

前期	2	2. 鍼の基本実技の説明、練習	
	3	(1) 刺鍼法の概説、(2) 偶発症と対策	
	4	(3) 基本刺鍼練習	
	5	①片手挿管の反復練習	
	6	②刺鍼練習台にて刺鍼基本動作の反復練習	
	7	・送り込み法、旋撚刺法、撚鍼法	
	8	・直刺、斜刺、横刺	
	9	・各手技（17法）の説明と練習	
	10	(4) 人体刺鍼（自己下腿刺鍼）	
	11	・自己下腿刺鍼の練習	
	12	①下肢陽経の刺鍼（胃経を中心に）	
	13	②下肢陰経の刺鍼（脾経を中心に）	
	14	③下肢への刺鍼（その他の経絡、大腿部）	
	15	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ①下肢 a. 背臥位 陽経	
	16	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ①下肢 b. 背臥位 陰経	
	17	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ①下肢 c. 腹臥位 陽経・陰経	
	18	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ①下肢 d. 背臥位：足部	
	後期	19	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ①下肢 全体復習
20		前期復習（夏季休暇後の為）	
21		鍼実技試験1（施鍼基本動作確認）	
22		鍼実技試験2（人体施鍼）	
23		試験講評	
24		(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ②上肢 a. 陽経 1	
25		(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ②上肢 a. 陽経 2	
26		(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ②上肢 b. 陰経 1	
27		(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ②上肢 b. 陰経 2	
28		(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ③頸肩背部 1	
29		(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ③頸肩背部 2	
30		(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ③頸肩背部 3	
31		(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ④腰殿部	
32		(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ③頸肩背部～④腰殿部の復習	
33		(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ⑤肩関節周囲部 1	
34		(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ⑤肩関節周囲部 2	
35		鍼実技試験（対人施鍼）	
36		試験講評	
37		(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ⑥腹部 1	
38	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ⑥腹部 2		
39	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ⑦胸部		
40	(6) 人体刺鍼（対人刺鍼） ⑧頭部		
41	(7) 人体刺鍼（対人刺鍼） ⑨顔面部		

【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう基礎実技Ⅱ

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	畠山 博式	
単位数	2 単位		実務経験	5年以上
開講学期	前期・後期	授業形態・回数	実技	36回

【授業情報】

授業概要	はり師・きゅう師が医療人である事を自覚することで、衛生観念などをはじめ身なりや言葉遣いなどを意識させるとともに、灸施術時の注意事項や過誤・副作用などとその対処法などを学習する。実技として、前期までは灸実技を中心に灸道具の取り扱いや消毒法なども含めた灸の基本実技・動作を理解、実践できるような学習を行い、後期からは身体部位の代表的な経穴に対して、基本的な灸施術を中心とした鍼灸施術動作を行えることを目的に行う。 治療院での施術経験を活かし、はりきゅうの施術手法について、より実践的な授業を行う。
授業の一般目標 (G10)	医療人として相応しい衛生観念、言動ができるとともに過誤や副作用を理解する。灸の基本実技を理解し、正確に実践できることを目標とする。後期には身体各部位に於いて灸施術を中心として、安全に鍼灸施術が行える事を目標とする。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・灸の基礎知識について理解することができる。 ・基本施灸練習、適切な①艾ひねり②竹上点火を行うことができる。 ・適切な人体施灸（自己下腿）を行うことができる。 ・適切な人体施灸（対人施灸）を行うことができる。 ・人体の各部に適切な施灸動作を行うことができる。

【担当教員から】

教科書	はりきゅう実技〈基礎編〉 第2版
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	教科書に載っている用語の理解のために予習をしておくことを勧めます。

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
前期	1	灸実技の概要説明 1. 灸の基礎知識 1) 艾について など 2) 灸術の種類について	灸の基礎知識	実技
	2	2. 灸の基礎実技 (1) 基本施灸練習 ①艾ひねり	灸のひねり、米粒大・半米粒大	実技
	3	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり		実技
	4	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり		実技
	5	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり、②竹上点火	竹上にて適切な施灸動作	実技
	6	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり、②竹上点火		実技
	7	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり、②竹上点火		実技
	8	(1) 基本施灸練習 ②竹上点火 (2) 人体施灸 (自己下腿)	自己下腿に適切な施灸動作 (衛生操作・消毒法などを含む)	実技
	9	(1) 基本施灸練習 ②竹上点火 (2) 人体施灸 (自己下腿)		実技
	10	(1) 基本施灸練習 ②竹上点火 (2) 人体施灸 (自己下腿)		実技
	11	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、②下肢 (陽経)	対人において 下肢の各部に適切な施灸動作 (衛生操作・消毒法などを含む)	実技
	12	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、②下肢 (陰経)		実技
	13	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、②下肢 (後面)		実技
	14	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、②下肢全体復習		実技
	15	前期試験前の確認・復習 (夏季休暇後)		実技
	16	前期 灸実技試験 1	スムーズな艾ひねり、施灸基本動作	試験
	17	前期 灸実技試験 2	適切な対人施灸	試験
	18	試験講評	試験内容のフィードバック	実技
後期	19	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、③上肢 (陽経)	対人に於いて 各部に適切な施灸動作ができる (衛生操作・消毒法などを含む)	実技
	20	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、③上肢 (陰経)		実技
	21	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、③上肢全体復習		実技
	22	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、③上肢全体復習		実技
	23	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、④肩背部 1		実技
	24	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、④肩背部 2		実技
	25	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑤腰背部		実技
	26	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑥肩背腰部復習		実技
	27	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑦肩関節周囲部 1		実技
	28	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑦肩関節周囲部 2		実技
	29	後期試験前の確認・全体復習		実技
	30	後期 灸実技試験 1	失眠穴、2点連続施灸	試験
	31	後期 灸実技試験 2	体幹・上下肢、2点連続施灸	試験
	32	試験講評	試験内容のフィードバック	実技
	33	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑧腹部 1	対人に於いて 各部に適切な施灸動作ができる (衛生操作・消毒法などを含む)	実技
	34	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑧腹部 2		実技
	35	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑨胸部		実技
	36	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑩頭部		実技

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
前期	1	灸実技の概要説明 1. 灸の基礎知識 1) 艾について など 2) 灸術の種類について		
	2	2. 灸の基礎実技 (1) 基本施灸練習 ①艾ひねり		
	3	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり		
	4	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり		
	5	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり、②竹上点火		
	6	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり、②竹上点火		
	7	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり、②竹上点火		
	8	(1) 基本施灸練習 ②竹上点火 (2) 人体施灸 (自己下腿)		
	9	(1) 基本施灸練習 ②竹上点火 (2) 人体施灸 (自己下腿)		
	10	(1) 基本施灸練習 ②竹上点火 (2) 人体施灸 (自己下腿)		
	11	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、②下肢 (陽経)		
	12	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、②下肢 (陰経)		
	13	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、②下肢 (後面)		
	14	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、②下肢全体復習		
	15	前期試験前の確認・復習 (夏季休暇後)		
	16	前期 灸実技試験 1		
	17	前期 灸実技試験 2		
	18	試験講評		
後期	19	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、③上肢 (陽経)		
	20	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、③上肢 (陰経)		
	21	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、③上肢全体復習		
	22	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、③上肢全体復習		
	23	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、④肩背部 1		
	24	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、④肩背部 2		
	25	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑤腰背部		
	26	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑥肩背腰部復習		
	27	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑦肩関節周囲部 1		
	28	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑦肩関節周囲部 2		
	29	後期試験前の確認・全体復習		
	30	後期 灸実技試験 1		
	31	後期 灸実技試験 2		
	32	試験講評		
	33	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑧腹部 1		
	34	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑧腹部 2		
	35	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑨胸部		
	36	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑩頭部		

【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう基礎実技Ⅲ(生体観察を含む)

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	藤田洋輔/深山千歳	
単位数	2 単位			5年以上
開講学期	前期・後期	授業形態・回数	講義・実習	36回

【授業情報】

授業概要	鍼灸医療は体表面からアプローチすることから、体表観察が正確に行えることは大きな意味をもつ。そこで、身体診察や取穴に必要な体表解剖を理解、触知できることとともに、主要な経穴を正確に取穴できる能力を養う。また、リスク管理の意識を持ち、バイタルサインを理解し、血圧・脈拍の測定を継続的に行い習慣化する。治療院での施術経験を活かし、はりきゅうの施術手法について、より実践的な授業を行う。
授業の一般目標 (G10)	身体診察や取穴に必要なランドマークとなる骨や主要な筋・動脈等を理解し、触知できることで、正確な診察や取穴のできる能力を養うとともに、さらに手足要穴の解剖学的な理解を深め、正確に取穴できる能力を養う。また、バイタルサインを理解し、特に血圧と脈拍を正確に測れる能力を養う。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・身体各部のランドマークとなる部位(骨)を理解し、触知することができる。 ・身体各部の主要な筋を理解し、触知することができる。 ・身体各部の主要な動脈を理解し、触知することができる。 ・手足要穴について理解し、正確に取穴することができる。 ・バイタルサインを理解し、特に血圧・脈拍について正しく測定することができる。

【担当教員から】

教科書	新版 経絡経穴概論〈第2版〉
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】はりきゅう基礎実技Ⅲ 2022年度 鍼灸科 夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1	1. 取穴授業と体表解剖についての概要説明 2. 体表解剖総論 1)人体の区分、名称など	人体の区分、名称、方向、位置	実技
	2	2. 体表解剖総論 1)人体の区分、名称など 2)人体の方向と位置、重心など		実技
	3	3. 各部の体表解剖 1)体幹のランドマーク 1	脊柱、頭蓋骨	実技
	4	3. 各部の体表解剖 1)体幹のランドマーク 2	胸骨、鎖骨、肩甲骨	実技

前期	5	3. 各部の体表解剖 2) 上肢のランドマーク 1	上腕骨、橈骨、尺骨、肩・肘関節	実技	
	6	3. 各部の体表解剖 2) 上肢のランドマーク 2	手部、手関節	実技	
	7	3. 各部の体表解剖 3) 寛骨のランドマーク	恥骨、腸骨、坐骨	実技	
	8	3. 各部の体表解剖 4) 下肢のランドマーク 1	大腿骨、脛骨、腓骨、膝蓋骨、股・膝関節	実技	
	9	3. 各部の体表解剖 4) 下肢のランドマーク 2	足部	実技	
	10	3. 各部の体表解剖 5) 下肢の主な筋肉・腱・血管	下肢の主要な筋、腱、血管	実技	
	11	4. 各部の体表解剖と経穴 1) 各部の経絡・経穴の触知 (1) 下肢 a. 陽経	下肢陽経の要穴	実技	
	12			実技	
	13	4. 各部の体表解剖と経穴 1) 各部の経絡・経穴の触知 (1) 下肢 b. 陰経	下肢陰経の要穴	実技	
	14			実技	
	15	前期試験前の確認・復習		実技	
	16	前期試験：生体観察、要穴取穴		試験	
	17	試験後フィードバック、再試験	試験内容のフィードバック	実技	
	18	前期復習 5. バイタルサイン（血圧・脈拍測定）	脈拍・血圧測定	実技	
	後期	19	3. 各部の体表解剖 6) 上肢の主な筋肉・腱・血管	上肢の主要な筋、腱、血管	実技
		20	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (2) 上肢 a. 陽経	上肢陽経の要穴	実技
		21			実技
		22	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (2) 上肢 b. 陰経	上肢陰経の要穴	実技
23				実技	
24		4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (2) 上肢 c. 復習	上肢の経脈、要穴	実技	
25		4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (3) 頸肩部 1	頸肩部の主要な経穴	実技	
26		4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (3) 頸肩部 2		実技	
27		4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (4) 背腰部 1	背腰部の主要な経穴	実技	
28		4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (4) 背腰部 2		実技	
29		4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (5) 腰殿部	腰殿部の主要な経穴	実技	
30		後期試験：生体観察、主要な経穴の取穴		試験	
31		試験後フィードバック、再試験	試験内容のフィードバック	実技	
32		4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (6) 胸腹部 1	胸腹部の主要な経穴	実技	
33		4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (6) 胸腹部 2		実技	
34		4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (6) 胸腹部 3		実技	
35		4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (7) 頭部・顔面部 1	頭部・顔面部の主要な経穴	実技	
36		4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (7) 頭部・顔面部 2		実技	

【授業進度表】 はりきゅう基礎実技Ⅱ 2022年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認	科長確認
	1	1. 取穴授業と体表解剖についての概要説明 2. 体表解剖総論 1) 人体の区分、名称など			
	2	2. 体表解剖総論 1) 人体の区分、名称など 2) 人体の方向と位置、重心など			
	3	3. 各部の体表解剖 1) 体幹のランドマーク 1			
	4	3. 各部の体表解剖 1) 体幹のランドマーク 2			
	5	3. 各部の体表解剖 2) 上肢のランドマーク 1			
	6	3. 各部の体表解剖 2) 上肢のランドマーク 2			

前期	7	3. 各部の体表解剖 3) 寛骨のランドマーク	
	8	3. 各部の体表解剖 4) 下肢のランドマーク 1	
	9	3. 各部の体表解剖 4) 下肢のランドマーク 2	
	10	3. 各部の体表解剖 5) 下肢の主な筋肉・腱・血管	
	11	4. 各部の体表解剖と経穴 1) 各部の経絡・経穴の触知	
	12	(1) 下肢 a. 陽経	
	13	4. 各部の体表解剖と経穴	
	14	1) 各部の経絡・経穴の触知 (1) 下肢 b. 陰経	
	15	前期試験前の確認・復習	
	16	前期試験：生体観察、要穴取穴	
17	試験後フィードバック、再試験		
18	前期復習 5. バイタルサイン（血圧・脈拍測定）		
後期	19	3. 各部の体表解剖 6) 上肢の主な筋肉・腱・血管	
	20	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定）	
	21	1) 各部の経絡・経穴の触知 (2) 上肢 a. 陽経	
	22	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定）	
	23	1) 各部の経絡・経穴の触知 (2) 上肢 b. 陰経	
	24	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定）	
	25	1) 各部の経絡・経穴の触知 (2) 上肢 c. 復習	
	25	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定）	
	26	1) 各部の経絡・経穴の触知 (3) 頸肩部 1	
	26	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定）	
	27	1) 各部の経絡・経穴の触知 (3) 頸肩部 2	
	27	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定）	
	28	1) 各部の経絡・経穴の触知 (4) 背腰部 1	
	28	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定）	
	29	1) 各部の経絡・経穴の触知 (4) 背腰部 2	
	29	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定）	
	30	1) 各部の経絡・経穴の触知 (5) 腰殿部	
	30	後期試験：生体観察、主要な経穴の取穴	
31	試験後フィードバック、再試験		
32	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定）		
32	1) 各部の経絡・経穴の触知 (6) 胸腹部 1		
33	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定）		
33	1) 各部の経絡・経穴の触知 (6) 胸腹部 2		
34	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定）		
34	1) 各部の経絡・経穴の触知 (6) 胸腹部 3		
35	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定）		
35	1) 各部の経絡・経穴の触知 (7) 頭部・顔面部 1		
36	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定）		
36	1) 各部の経絡・経穴の触知 (7) 頭部・顔面部 2		

2022年度 夜間鍼灸科

【分野】 専門分野

【科目】 臨床実習 I

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員		
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	通年	授業形態・回数	講義・演習	23回

【授業情報】

授業概要	<p>鍼灸科附属施術所における臨床見学を通して、鍼灸治療の実際に触れ、はり師・きゅう師としての将来像をイメージすることで、何を学び何が必要とされるのか理解する。</p> <p>また、学外の鍼灸施術所や医療・スポーツ・介護施設等など将来関連すると考えられる臨床現場を見学することで、医療人として幅広い視野を育てるとともに、はり師・きゅう師としての役割や将来像を主体性をもって考える機会をもつ。</p>
授業の一般目標 (G10)	<p>臨床見学を通して、鍼灸の効果や患者対応などの臨床の実際を認識することで、医療人としての倫理観や臨床能力(知識・技術・態度)の必要性について理解する。</p> <p>そのために、鍼灸医学を学ぶ学生としての自覚を持つとともに、通常の座学および実技授業に対する能動的な学習意識の向上を図ることを目的とする。</p> <p>また、学外の鍼灸施術所や医療関連施設などを見学することで、多様性を理解し、幅広い視野をもって、はり師・きゅう師としての将来像をイメージする力を身につける。</p>
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療人としてふさわしい身なり、衛生概念が身についている。 ・患者、研修生、指導者に対して挨拶・自己紹介ができる。 ・研修生・指導者の指示に従い適切な言動ができる。 ・臨床実習施設における鍼灸施術の流れを理解することができる。 ・課題レポートを適切に書くことができる。 ・2年、3年の臨床実習を見学し、学内での到達目標を理解することができる。 ・臨地見学実習にて、指導員や患者に対し挨拶・自己紹介ができる。 ・臨地見学実習にて、臨床現場の指導員の指示に従うことができる。 ・臨地見学実習にて、臨床現場で体感し理解を深めたことをレポートにまとめることができる。

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	<p>成績評価の基準と算定方法（評価割合）</p> <p>総合的に判断して60点以上（100点満点中）を合格点とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席率 2. 課題レポート（見学実習記録、デイリーノート、振り返りノートの評価） 3. 実習中の態度・取り組む姿勢など（実習指導者による評価）
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学内：各々提出レポート（見学実習記録1・2・3・4）、出席率 ・学外：臨地見学実習レポート（デイリーノート、振り返りノート） 実習指導者による評価表
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 臨床実習Ⅰ 2022年度 夜間鍼灸科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1	見学基礎実習1(臨床実習ガイダンス)		講義
	2	学内臨床見学実習1(附属施術所) ・研修生による施術の見学	研修生の施術見学	実習
	3	・監督教員による施術内容についての説明など (3年実習も一部見学し、概要を把握)		実習
	4	見学実習1-1(附属施術所) ・教員による施術の見学		教員の施術見学、施術後の解説 授業内容との関連
	5	・施術担当教員による施術内容についての説明		実習
	6	見学基礎実習2(臨地実習ガイダンス)	外部臨床実習	講義
	7	体験型見学実習(附属施術所) (患者の立場から、施術全体を体験・見学する)	鍼灸施術者として必要な事	実習
	8	見学実習1-2(附属施術所) ・教員による施術の見学	教員の施術見学や施術後の解説 授業内容との関連	実習
	9	・施術担当教員による施術内容についての説明		実習
	10	見学実習1-3(附属施術所) ・教員による施術の見学		実習
	11	・施術担当教員による施術内容についての説明		実習
	12	学内臨床見学実習1(附属施術所) ・研修生による施術の見学	研修生の施術見学 2年次の実習内容	実習
	13	・監督教員による施術内容についての説明など (2年実習も一部見学し、概要を把握)		実習
	14	見学実習1-4(附属施術所) ・教員による施術の見学	教員の施術見学、施術後の解説 授業内容との関連	実習
	15	・施術担当教員による施術内容についての説明		実習
	16	外部臨床実習1(施術所または医療施設等の見学)	学外のあはき施術所の見学 あはきの多様性や相違点	実習
	17			実習
	18	外部臨床実習2(施術所または医療施設等の見学)		実習
	19			実習
	20	外部臨床実習3(施術所または医療施設等の見学)		実習
	21			実習
	22			実習
	23	外部臨床実習4(施術所または医療施設等の見学)		
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 医学準備教育

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	三村 直巳	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	生体の構造を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な構造が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造を習得し、その基本的な段階としての循環器系、生体防御などについて理解を深める。
授業の一般目標 (G10)	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の構造について学習するとともに、その名称や機能についても学習する。生命維持に必要なエネルギーの元となる酸素と栄養素を運搬し、代謝産物を受け取って排泄器官に運ぶ循環器系の構造と機能、人体防御について学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホメオスタシスと体液、イオンについて理解することができる。 ・循環器系について理解することができる。 ・生体防御について理解することができる。 ・身体活動の協調について理解することができる。 ・成長と老化について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	解剖学・生理学・はりきゅう理論 東洋療法学校協会編
参考書	ぜんぶわかる人体解剖図 他 配布プリント等
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験90%と小テスト10%で総合的に評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	生理学、解剖学の教科書に載っているものは必ず復習をすること。

【授業計画】 医学準備教育 2022年度 夜間鍼灸科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1	スタディースキル	講義を聞いてノートにまとめる	講義
	2	基礎【ホメオスタシスと体液】	内部環境の恒常性と体液の組成	講義

1期	3	基礎【イオンとは】	イオン	講義
	4	循環器系【血液細胞】	赤血球、白血球、血小板	講義
	5	循環器系【血漿・止血・線維素溶解】	血漿の成分と機能、止血、線維素溶解	講義
	6	循環器系【血液型・心臓血管系】	血液型、大循環と小循環	講義
	7	循環器系【心臓の構造】	心臓の構造	講義
	8	循環器系【心筋・刺激伝導系・心機能の調節】	心筋の特性、刺激伝導経、心周期、心音	講義
	9	循環器系【心電図・神経支配】	心電図・心臓の神経支配	講義
	10	循環器系【血管の構造と働き】	血管の構造と働き、毛細血管の循環、静脈還流、神経支配	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	循環器系【体幹の動脈】	主幹動脈とその枝	講義
	14	循環器系【体幹の静脈】		講義
	15	循環器系【血圧】	血圧の概念、影響する因子	講義
	16	循環器系【循環調節】	循環の局所性調節、反射性調節	講義
	17	循環器系【特殊な循環・胎児循環】	特殊な部位の循環、胎児循環	講義
	18	循環器系【リンパ系】	リンパ系の構造と働き	講義
	19	生体防御【白血球の種類と働き】	白血球の種類と働き	講義
	20	生体防御【液性因子・自然免疫と獲得免疫】	液性因子の働き、特異的免疫・非特異的免疫	講義
	21	身体活動の協調	生体のバイオリズム、血糖調節	講義
	22	成長と老化	成長と老化の特徴	講義
	23	試験		試験
	24	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【授業進度表】 医学準備教育 2022年度 夜間鍼灸科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
	1	スタディースキル		
	2	基礎【ホメオスタシスと体液】		

1期	3	基礎【イオンとは】		
	4	循環器系【血液細胞】		
	5	循環器系【血漿・止血・線維素溶解】		
	6	循環器系【血液型・心臓血管系】		
	7	循環器系【心臓の構造】		
	8	循環器系【心筋・刺激伝導系・心機能の調節】		
	9	循環器系【心電図・神経支配】		
	10	循環器系【血管の構造と働き】		
	11	試験		
	12	試験解説		
	2期	13	循環器系【体幹の動脈】	
		14	循環器系【体幹の静脈】	
15		循環器系【血圧】		
16		循環器系【循環調節】		
17		循環器系【特殊な循環・胎児循環】		
18		循環器系【リンパ系】		
19		生体防御【白血球の種類と働き】		
20		生体防御【液性因子・自然免疫と獲得免疫】		
21		身体活動の協調		
22		成長と老化		
23		試験		
24		試験解説		
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			